



SMFアート寺子屋 vol.2

一度しかない人生を 楽しむために “**仮設の知恵**”

2012年**11月25日(日)** 13:00→16:00

埼玉県立近代美術館講堂 入場無料 定員50名 先着順(事前申込不要)

講演：内田祥哉(東京大学名誉教授、建築家)／司会：三浦清史(SMF運営委員、建築家)

アートプラットフォームフォーム形成のためのメタデザイン

アート寺子屋

SMFアート寺子屋 vol.3

考えられないことを 考えられるようになること(2) “**創造性と社会性**”

2013年**1月12日(土)** 13:00→17:00

埼玉県立近代美術館講堂 入場無料 定員50名 先着順(事前申込不要)

講演 + パネルディスカッション

講演：岡田猛(心理学・認知科学、東京大学教授)／熊倉純子(アートマネジメント、東京芸術大学教授)

パネラー：岡田猛 + 熊倉純子 + SMF／司会：柴山拓郎(SMF運営委員、作曲家)

SMF(サイタマ・ミュージアム・フォーラム)は、埼玉県の芸術文化拠点である、うらわ美術館、川口市立アートギャラリーアトリア、入間市立博物館アリット、川越市立美術館と多彩なアーティストが埼玉県立近代美術館と協働しながら、アートによる緩やかなプラットフォームを形成することを目的とした活動を2007年より行っています。メンバーは、建築家、現代美術家、モダンダンサー、現代音楽作曲家、俳人、詩人などのアーティストと美術教員、美術館／博物館の学芸員やアートを通じた地域活動を展開する市民など幅広い分野から構成されており、表現やアート運営の専門家たちがそれぞれのスキルを持ち寄ることで、多彩な企画を埼玉県内に拡げています。活動開始から5年を経て、いくつかのアートイベントが県内に定着し、多くの人々の交流も生まれました。その一方でアートプラットフォームの形成には、多彩なメンバーが参集する意味や、アートによるプラットフォームを形成することで可能になることは何なのかについて、もう一度原点に立ち返って考えることも求められています。

SMFアート寺子屋では、“逸脱する芸術表現”“仮設の知恵”“創造性と社会性”という3つのテーマを通し、アートの変容は人間のどのような性質によってもたらされ、また、その変容が人間にどのような変化を与えたのか、そして、それらの原動力となる創造性は、人間の社会とどのように関わっているのかを、活動事例や研究発表、パネルディスカッションを通じてあぶり出していきます。

アートを通じて何かを変えたい人、アートに触れることで変わりたい人、アーティストや芸術政策関係者、建築家など、専門家だけではなく、アートに興味がある全ての方々と共に考える場となることを願います。

SMFアート寺子屋 vol.1

考えられないことを 考えられるようになること(1) “逸脱する芸術表現”

(先端芸術音楽創作学会共催)

2012年9月29日(土) 13:00→17:00

研究発表: 柴山拓郎、塩野衛子、星・柴玲子

パネルディスカッション: 伊藤俊治(東京芸術大学教授、美術評論)、沼野雄司(桐朋学園大学准教授、音楽学)、古川聖(東京芸術大学准教授、作曲家)、松村誠一郎(東京工科大学准教授、メディアアーティスト)、高橋博夫(SMF運営委員、俳人) / 司会: 柴山拓郎(SMF運営委員、作曲家)

近代以降、アートはそれまでの表現を大きく逸脱しながら変容を遂げてきました。その過程は、アートの表現の領域外にある概念を領域内に引き寄せることによって獲得するという、思考の拡張を示しているとも言えます。その拡張は何によってもたらされ、また、その拡張は誰に何をもたらすのでしょうか。現代音楽やメディアアートの専門家によるディスカッションを通じて、先端的な芸術表現が私たちの生態にとっていかなる存在なのかを探っていきます。

SMFアート寺子屋 vol.2

一度しかない人生を 楽しむために “仮設の知恵”

2012年11月25日(日) 13:00→16:00

講演: 内田祥哉(東京大学名誉教授、建築家) / 司会: 三浦清史(SMF運営委員、建築家)

必要に応じてかりに設けることが仮設です。必要が何らかの変化を受容するためならば、応じた仮設が生じます。震災などの受動的な変化には仮設住宅が、ライフステージの変化には改装や転居で、これらも次のステージまでの仮設かもしれません。さらに能動的なライフスタイルの変化にも、この風土の建築は木造の構法で応じてきました。だから現在を楽しむための仮設の知恵がテーマです。お話しは内田祥哉さん。
へんなことをするアートの立場も、もしかするとそれによって日常の変化を引き起こす仮設なのではないかと思っているのですが……。

SMFアート寺子屋 vol.3

考えられないことを 考えられるようになること(2) “創造性と社会性”

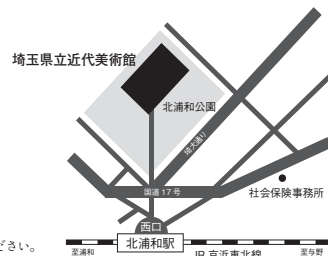
2013年1月12日(土) 13:00→17:00

講演: 岡田猛(心理学・認知科学、東京大学教授)、熊倉純子(アートマネジメント、東京芸術大学教授)

パネルディスカッション: 岡田猛+熊倉純子+SMF / 司会: 柴山拓郎(SMF運営委員、作曲家)

ヒトは、社会集団の中で、自分が他者とは異なった「卓越した存在」でありたいと願う一方、異なりすぎることについては危機感を持ち、自身の特異性を抑制する傾向があります。いわば、創造的であることと、社会的であることは相反しながらも表裏一体となった人間の振る舞いでもあります。創造性豊かな芸術家の表現は、時に多くの人々の賛同を得られない場合があります。しかし、時が流れたあとで、その表現が社会性を獲得して広く受け入れられるようになることもあります。考えられないことを考えられるようになっていく(=思考を拡張していく)過程がいかなるものなのかを探ります。

●いずれも埼玉県立近代美術館講堂 入場無料 定員50名 先着順(事前申込不要)



SMFアート寺子屋「アートプラットフォーム形成のためのメタデザイン」